

第 7 回伊勢原市都市マスタープラン検討部会 会議録

〔事務局〕 都市部都市総務課

〔開催日時〕 平成25年11月28日（木）午後2時～4時30分

〔開催場所〕 伊勢原市青少年センター2階 工芸室

〔出席者〕

（委員） 加藤仁美（座長）、遠藤新（副座長）、川崎一泰、藤田成吉、三箸宜子

（事務局） 藤堂都市総務課長、中島土地利用計画担当課長、飯田都市総務課主幹ほか都市総務課2名

〔公開の可否〕 公開

〔傍聴者〕 なし

《会議の経過》

1 開会

2 議題

（1）将来土地利用及び都市構造のあり方について

3 その他

4 閉会

〔内 容〕

○ 議題

- ・加藤座長により議事を進める。
- ・各委員の主な意見、質疑応答は次のとおり。

【事務局説明】

座 長 今回は、全体構想を検討するに当たってベースとなる資料を事務局にまとめてもらっています。それでは、この資料をベースに議論を進めたいと思います。まず、どなたか御質問のある方はいらっしゃいますか。

委 員 都市マスタープランにおいては、資料にもあるように、これから「しあわせ想像都市」を目指していく伊勢原市では、ソフトの部分の取組が大切になってくると感じます。計画を実際に動かしていく力をどのように入れ込んでい

くかが重要であり、担い手となる市民やNPOなどが理解していくための要素をもっと盛り込んでいく必要があるのかもしれませんが。計画の原動力となるソフトの面をもっと充実させていく必要があると考えています。

委員 資料では、前回までの会議の整理がされていますが、この資料の中で「拠点」、「軸」とは何を意味しているのでしょうか。「軸」は、大半が都市計画道路や幹線道路で、これらを軸とすることによって、伊勢原の都市の将来の中でどのようにしていきたいのか。現在の伊勢原の土地利用の実態やこれまでの議論で挙げられてきた意見と、資料に整理されている拠点や軸の位置付けが結びつかず、市として将来どのようなまちを目指そうとしているのかがうまく見えてきません。単に機能として捉えているように見えます。伊勢原のまちづくりの今後の課題や問題として感じられる部分というのは、それだけではないのではないかと感じられます。

座長 生活レベルの土地利用の実態をもっと落とし込んでいった方が良いということなのかもしれません。

委員 これまでの部会では、比較的微小な話題が多かったこともあり、資料で示される内容が唐突に出てきたように感じられるということなのかもしれません。財政面が厳しい状況では、選択と集中がどうしても求められます。何に投資をするか、何をやめるか。それを示すことは、民間にもっと公共に投資してもらいたいということを考えても、都市マスタープランにおいて必要なものだと思います。以前、パーク・アンド・ライドの話が出たことがありましたが、それを踏まえるならば、むしろ、集約によるハブ・アンド・スポークの考え方で、新しい拠点となる場所を中心として、市街地から大山へ向かうときも、直通ではなく、その拠点を經由する形にして、新しいネットワークの構築について検討するのも良いのかなと思います。これは山の保全にも繋がってくると考えます。これからはこういうネットワークを作っていくという点を明らかにしていくべきなのだと思います。また、現在事業が進められている新東名高速道路や246バイパスが整備されたら、現在の国道246号の位置づけは変わってくるのではないかと考えています。国道246号が、幹線道路としての性格から生活道路としての性格へと変化していくのだとすれば、それに伴って土地利用の転換の可能性が出てくるのではないのでしょうか。この観点は伊勢原としては議論が必要な部分であると考えます。そして、土地利用における産業的ニーズを考えるのだとしたら、医療関連の産業ですとか、伊勢原ならではの産業を検討する必要があります。ネットワ

ークの話や、根幹的な部分にも繋がると思いますので、こちらの方向で議論を深めていくのが良いのではと考えます。

座長 御指摘いただいた点として、伊勢原らしさをきちんと盛り込む必要があるという話と、拠点の考え方を、時代の趨勢を含め検討した方が良いという話、それから、プライオリティ、どこまで投資できるかという話があるので、それがきちんと見える形にしたいと思います。また、ネットワークは重要であると考えていますので、道路にかかわらず、インターと大山日向、市街地との関係など、ネットワークをどう作るかというのが、大きなポイントであると考えています。また、広域幹線道路が整備されることによる幹線道路のネットワークの変化というのも、考えていくべき重要な問題であるのだと思います。

委員 よく分析されているのだと感じます。しかし、このプランで、伊勢原をどうしたいのかという点が見えにくくなっていると感じられます。自治体の役割は、市民の安心安全を守るということと、地域の発展ということにあると考えています。伊勢原としてこれからの方向を見た場合に、産業としては農業や医療の2つ、これに福祉や保育を含めて考えても良いと思います。インター周辺で現在検討されているのが工業的な土地利用ということですが、工業分野は国外に流出し始めている状況にありますので、グローバル経済の中で、日本国内で新たに工業をとというのは難しい部分も多いかと思います。農業をもっと一つの柱の産業として位置付けていけると良いのかなと思います。例えば、市内には何箇所も農協の直売所がありますが、これは地域の近所の人にとっては良い場所で、日常の買い物の場となっています。これをもっと拠点化して、外から人を呼び込む柱として使えないでしょうか。お年寄りにとって、近くから直売所がなくなってしまうと困るなと思われるのなら、直売所のような拠点同士をミニバスで繋ぐですとか、宅配サービスを行うですとか、そういうシステムの街にしていくというのも一つの考えなのではないでしょうか。農業をどうするのかという点をもっと検討していった方が良いのではないのでしょうか。2点目は、医療の分野ですが、大きい病院が2箇所あるというだけで「拠点」というのはアピールするにも少し力不足な部分があるのではないのでしょうか。例えば、医療関係の大学や研究所の誘致を行うですとか、そのようなことを行っていくことが拠点化ということなのではないのでしょうか。

委員 最近、市内の事業者の方と会う機会があったのですが、伊勢原市内の工業の

出荷額は、第3次産業よりも多いという話を聞きました。現在、国内の工業は厳しい状況にありますが、伊勢原市内のものづくりの位置付けというのでも考えていくべきなのかもしれません。選択と集中とネットワークが重要であるという話が出ましたが、これはハードの面に限らず、ソフトの面にも同じことが言えるのだと思います。また、それらはどうすれば動くのか、まずは何をしていくのかというものをもっと前面に出していく必要があると考えています。こういうまちづくりを行っていくのだということが見える生きた計画としていくための仕組みをもっと盛り込んで、拠点というものに繋がっていくような具体的な事例も交えて、計画が動くという雰囲気が感じられる部分があると良いのかなと思います。

委員 農業や医療の話をしてきましたが、観光の視点も大事だと思っています。紅葉や桜の時期には大勢いらっしゃいますが、紅葉や桜の時期以外にも、都心の身近な観光地として、普段からもっと来て欲しいと思います。受け入れる側のもてなしの部分、人材の育成の部分はどうするのか。これは都市マスタープランに盛り込める話でもないですが、検討をする必要があることだと思っています。商店街も同じです。観光客を受け入れていく体制を作っていく必要があるのだと思います。

委員 日本の製造業の先行きが見えにくいという話はあるかもしれませんが、日本で生きていける工業もあります。例えば、細胞・バイオ関連の産業、これに関連する施設、研究する施設が挙げられます。

委員 仮に、医療拠点をつくるとすれば、病院が建っていれば良いという問題ではなく、薬品など、それをバックアップする産業の存在がその拠点の周辺に必要となります。例えば、通常であれば数日かかるような専門的な検査の結果が、即日で出せるくらい近くに立地していれば、医療の視点から見ればとても魅力的に感じるのではないかと思います。この手の産業で用いられる機材は、購入するには費用がかかり過ぎるものがとても多いので、そのような高額な機材が周辺の企業で共通に使用できるようになっていると、まさに拠点と呼べるようになるのではないのでしょうか。また、農業の独自産業という選択肢もあり得ます。何よりも、伊勢原らしさというものは、そういう部分にあるのではないかと考えています。水がきれいな土地で、だからといって半導体産業を今から始めるといっても難しいでしょうから、医療や農業関係の産業の拠点としていくのが良いのではないかと思います。

- 委員 あくまでイメージということで提案するということが必要なのだと思います。例えば、現在高齢化が進み、高齢者福祉の分野では地域包括ケアシステムの動きもあります。地域包括ケアシステムでは、病院や診療所が地域のコアとなります。それら各地域を統合するような形で、中心的な施設はどのように配置していくのか、医療を新しい産業としていくには施設の立地はどこが良いのか、そういう部分の提案ができるものになっていくと良いのではないかと考えています。越えるべきハードルは多いのかもしれませんが。
- 委員 以前、駅前に保育施設を充実させるという意見が出ましたが、これはやはり非常に魅力的に映ります。このように、イメージが表に出てくるものがいくつか出てきて欲しいと考えています。
- 座長 今のような点は非常に重要だと思ひまして、具体的な事例、伊勢原の原動力となり得る民間の動きにどのような動きがあるなどを、コラムのようなもので示していくと、実際に街を動かしていく原動力となっていくのではないかと考えています。イメージの話もありましたが、「ここにはこういう施設がある」というように紹介していくですとか、そういうものをちりばめられると良いのではないかと感じました。ワークショップを経て、非常に詳細なデータを用意してもらいましたので、現状のマッピングと将来計画、拠点にどう色を塗っていくか、具体的にどのような産業を据えていくのか、こういう点で議論を深めていくのが良いのかなと感じています。
- 委員 地域に色を付けていくといえば、都市計画の制度としては地区計画がなじむのだと思います。このようなまちを目指しますというところを示していくなら、ある程度有効であると考えています。用途地域は、現実としてある一定の方向へ用途を誘導することに限界があります。地区計画を作り、特定の方向性を示していくと、例えば医療拠点の周囲に研究、バックアップ産業を配置していくなどの誘導がしやすくなります。
- 事務局 選択と集中という話ですが、それを拠点と軸に繋げていきたいと考えています。どのような拠点を作っていくべきなのか、その拠点にどのような機能を持たせていくべきなのかという点については、ここではまだ提示していません。どのような機能が必要なのかという点も含めて今後議論を進めてもらいたいと考えています。駅前の話が出ましたが、集約型の都市構造を目指していく時代の中で、伊勢原駅が持つべき機能は都市マスタープランの中に盛り込んでいきたいと考えています。例えば、育児保育機能、観光客を受け入れ

ていくスペースとしての機能、交通のハブ機能など、このようなものに特化していくということも考えられるのだと思います。伊勢原のバス交通については、平塚駅伊勢原駅間は一日に 100 本以上の運行があり、通勤や買い物の足として使われています。伊勢原駅付近にどのような機能を持たせるのか、都市計画の制度をどう運用していくべきか、今後の課題であると考えています。

委員 例えば、文化といいますか、歴史文化のような意味合いではなく、より生活実態に即した文化、伊勢原ならではの暮らし方といいますか、エリア内の暮らし方というのは、支えていくということ、そのようなものの根底では、生活の文化のようなものが支えているはずで、そういう視点から見た伊勢原らしさというものが、目標の中に何らかの形に明示されていた方が良いのではないかと考えています。このようなことは都市構造の中には落とし込まれないところですが、そのような視点を持ってやるべきことがあると思います。都市計画からブレークダウンして出てくる末端のところ。

委員 今後は、高齢を理由として免許を返納する人が増えていきますので、病院へアクセスするバスの本数が足りなくなってくることが考えられると思います。

委員 246 バイパスができた後の国道246号の使い方という点も考えていかなければならないのだと思います。右折レーンなどにバス専用レーンを作ることとも検討してみると良いのではないのでしょうか。

委員 拠点病院に人が集中してきた現状から、地域の病院でまず受診し、必要な人だけ拠点病院へ振り分けていくという流れが作られつつありますが、これもバスレーンをどうするかということと関連するのかなと感じています。

委員 バスが一日当たり20本から25本の路線というのは、時間当たりの本数を考えてみると、意外と少ないのではないのでしょうか。

事務局 時間によって乗降客数に差が出てきますので、通勤時間に多く設定されていて、昼間が少ないという形です。大山へ向かう路線などでは、普段は20分に一本の運行間隔ということですが、紅葉の季節などでは4分に一本くらいの運行間隔になるとのことです。

座長 都市マスタープランへ盛り込む内容として、生活実態をブレークダウンした

話を入れる場合は、地域別構想として盛り込むのが良いでしょうか。

事務局 地域別構想は、従来7地区に分けていました。しかし、伊勢原には「やま・おか・まち・さと」という考え方もありますので、後者の4地区で分けるというのも一つの案であると思います。それぞれの生活における拠点、生活の中心点とされる部分を入れ込み、地域の生活レベルで書くということも考えられます。

座長 生活圏や生活実感の中で都市マスタープランを位置付けていくとすると、どのような方法が考えられるかというところが悩みどころです。例えば、「まち」の地域だけを切り取ったときに、それが見えてくるのか。「やま・おか・まち・さと」や生活に根ざしたものを踏まえるとすると、地域別構想もさることながら、やはり全体についての書き込みも必要となってくるのだと考えられます。生活実態などをブレイクダウンした書きぶりにしていくにはどうすれば良いかについて議論ができると良いのかなと思います。

委員 「やま」や「さと」の地域は保全をするという点が重要視されているということで、むしろ書く内容を少なくした方が良いということなのかもしれません。そうすれば、都市マスタープランを読んだ人も、投資先が「まち」へと向くのだと思います。例えば、パーク・アンド・ライドについて盛り込むとすると、「やま」に車を入れないというイメージが生まれる。あえて書かないということも、「保全をしていく」というメッセージとなるのだと思います。

委員 保全をしていくためのいろいろな方法がありますが、例えば景観で、土地利用そのものに対する規制は難しいですが、景観の視点から保全をしていくというような、ツールを意識した書き方をしていくことが必要なのだと思います。

委員 特に「やま」の地域についてですが、「こうしていかなければ保全できない」というような、踏み込んだ話を入れていくべきなのかどうかという話もあるのだと思います。選択と集中がキーワードとなっていますが、だからこそ、盛り込まれる内容が多い箇所と少ない箇所が出てきても良いのではないかと考えています。一方で、生活実態については、地域を特定して張り付いて書こうとすると、とても難しいと思いますが、どのように書くべきなのでしょう。例えば、何かモデルのような地区を挙げて、その地区についての方針を書いていくということになるのでしょうか。

委員 市街化調整区域の既存集落の今後というのも、重要なテーマとなってくるのだらうと思います。

委員 将来のまちづくりを考えていく上で、どこの自治体も財政が厳しいという現状があります。その中で、民間の資金をどのように入れていくのか、民間と行政がどのように役割を分担していくのかという話も出てきます。このような点にも踏み込まないと、実現性に乏しいものにもなりかねないのではないかと考えています。

座長 多くの御意見をいただき、ありがとうございました。それでは、今後の部会の進め方について確認したいと思います。次回の部会で全体構想のまとめに入るということによろしいでしょうか。

事務局 スケジュールとしては、次回で全体構想の骨子をまとめ、次々回以降で地域別構想の骨子をまとめていきたいと考えています。現在の都市マスタープランは、平成27年度までの計画となっていますので、平成26年度から27年度にかけて新プラン策定の手続を行いたいと考えています。来年度は、都市計画審議会との意見のやり取りの機会が増えると考えられますが、今後とも引き続きよろしくお願いします。

座長 ありがとうございました。これまでの部会で多くの意見が出ました。これらの中には、重要な指摘も少なくありませんでした。今回提示された「拠点」「軸」というものは、都市マスタープランとしては一般的な書きぶりであるとは思いますが、それらの中身の問題について、今回多く出てきたと思います。必要な機能は何なのかということ、用途でいえば、工業、農業、製造業など、どのような産業に力を入れていくかという話が出てきました。また、開発する部分はあるが、保全すべき拠点というものとあわせて考えていく必要があると思います。やはり、それらを伊勢原でどう位置付けていくのかという点が重要です。

財政難という現状を踏まえ、ハードだけでなく、ソフトを含め、計画を実際に動かしていく原動力を盛り込んだ書きぶりにするべきではないかということ、官と民の役割分担、誰がやるのか、誰が投資していくのかという点を明確にしていくことが重要であるのだと考えられます。それらは、どこまで投資をしていくのかという話にも繋がっていくのだと思います。

それから、ネットワークの議論がありました。ネットワークは、ハードだ

けでなく、医療、福祉、保育などのソフトを含めたネットワークを意識して書くことが必要であるのだと感じています。

拠点がらみでは、具体的な事例、取組を、コラムのような形で紹介していくということが、市民にとって読みやすい都市マスタープランに繋がると考えられますので、是非検討してもらいたいと感じました。

また、駅及びその周辺の位置付けについて、生活の拠点、観光客の受入れ機能、バスターミナル機能、公共交通との関係など、その辺りの整理が重要であると感じました。

最後に、生活実態との関係性をこの都市マスタープランに付け加えていくのかという点です。やはり、伊勢原のまちの方向性を市民のレベルで実感できるものにしていかなければ意味がないのではないかと考えています。そのためには何が必要か、これを全体構想に盛り込むのか地域別構想に盛り込むのかはまだわかりませんが、できるだけイメージができるものにしていけると良いと感じました。それにあわせて、ハードの整備については、地区レベルに落としした形での用途の誘導ということが必要なのかなと思いました。

委員 生活の実態と「拠点と軸」という構造を結びつけるのはなかなか難しいのかなと感じています。例えば、「直売所と集落」というような、イメージのしやすい、伊勢原らしいネーミングを検討してみると、良いヒントになるのかもしれない。

座長 本日も活発な議論をありがとうございました。

【閉会挨拶】都市総務課長

以上